

平成 29 年度市民対話集会会議録 (要約版)

日 時：平成 29 年 8 月 9 日（水）19 時 00 分
場 所：福社会館 6 階ホール

第3回市民対話集会会議録（要点）

- 1 日時 平成29年8月9日（水）19時00分～20時30分
- 2 場所 福祉会館6階ホール
- 3 団体 岡崎大学懇話会 43名
- 4 内容
 - ① 開会
 - ② 市政ビデオの放映
 - ③ 市長挨拶・説明
 - ④ 団体代表要望・意見等
 - ⑤ その他要望等

（団体要望）

若者が楽しむ娯楽施設について

質問

岡崎市には、若者が楽しむ娯楽施設が少ないのではないかと。JR、名鉄、高速道路と、交通アクセスはとても優れていると思うので、娯楽施設が増えるとよい。

回答（総合政策部長）

新東名高速道路の岡崎サービスエリアや、今、事業展開されようとしているアウトレットモールが、若者の娯楽施設に該当するのではないかと。また、今、市が保有している施設もいくつかあるので、つぶさに回っていただくことで良さを感じていただきたい。

回答（市長）

若者が遊ぶための施設の整備は、公共の仕事というよりは、民間の事業者の仕事として考えている。ただし、スポーツの振興などを目的とした施設の整備は、これからしっかりと進めていきたい。

岡崎の文化を活かしたまちづくりと情報発信について

質問

岡崎は城下町として栄えているまちだが、古い町並みが残っておらず、店も多くない。また、岡崎には独特の文化があるので、情報発信をうまくしていくことで、人を多く集められるのではないかと。

回答（市長）

自分たちの良さをあまり PR しないのは、岡崎市だけでなく愛知県人全体として反省すべき点だと思う。また、岡崎を含む西三河地域は、ものづくりによる経済発展を追求してきた面があるが、岡崎市には美しい自然景観や歴史文化資産など、他にはない素晴らしい財産がある。これを活かしたまちづくりを進めていきたい。

アーチェリーに取り組む若者を支援する政策について

質問

9 月に岡崎市で開催されるアーチェリーの選手権大会の誘致をきっかけに、岡崎をアーチェリーのメッカとすべく、アーチェリーに取り組む若者の支援を含めた長期の政策をお願いしたい。

回答（市長）

ロンドンオリンピック銅メダリストの蟹江選手が愛知産業大学三河高校の出身であること、愛知産業大学には世界に通用する指導者が在籍していること等から、これからアーチェリーには中央総合公園や仮称龍北総合運動場を始めとした施設設備、人材育成の両面で積極的に取り組んでいきたいと考えている。

給付型奨学金の導入について

質問

現在、岡崎市には貸付型奨学金は導入されているが、給付型奨学金の導入は検討できるか。たとえば、市内の事業所に勤めることなどを条件として、学生時代に奨学金の給付を行うようなものを想定している。

回答（総合政策部長）

平成 30 年度から、国の給付型奨学金制度が本格実施されると聞いているので、公平・平等の観点から、岡崎市単独で実施するのではなく、国の動向を見守りたいと考えている。また、憲法が保障する働く自由といった観点から、将来岡崎市で働くことを条件とした給付は難しいのではないかと思う。

本宿地区の再開発と移動の問題について

質問

アウトレット進出が計画されている本宿に若者が集える場を創造すること、自然環境を活かしたイベントを大学と連携して行うこと等によって、若者に住みよいまちづくりと地域交流が進むのではないか。そして、これらへのアクセスの問題を解消するため、まちバスなどの本数や路線増加といった行政の支援をお借りできないか。

回答（市長）

東部地域には広大な土地がまだあるので、これをまちの活性化に活かせるように考えていきたい。現在、岡崎市域の6割が中山間地になっているため、これをどう活用するかが今後の市政運営の課題の一つである。この中山間地を使った山間リゾートを計画し、雇用創出や地域の活性化につなげられないか考えている。

回答（総合政策部長）

バスのような公共交通を確保することは行政の役目であるが、バスは一定の需要がないとロスの多い事業で、路線によっては相当採算が厳しいものもある。先が見えない現時点では難しいが、今後、アウトレットの進出等により大きな需要が発生すれば、それに応える可能性はある。

若者に対する意識調査について

質問

過去に、若者に対して、岡崎市が住みよいまちであるかどうかを調査するアンケートを行ったことがあるか。また、どの点に満足・不満足があるか分析はされているか。

回答（総合政策部長）

若者だけを対象にしたものではないが、2、3年に一度、市民意識調査として無作為に抽出した市民のかたにアンケートをお願いしており、全体として、85%のかたに満足と回答いただいている。なお、満足であるかたと不満足であるかたの項目が一致することは興味深く、公共交通の便が良い（悪い）、買い物が便利（不便）という2点である。

自転車用道路の整備について

質問

高校、大学の通学路では、自転車が専用に通れるようには整備されておらず、事故を起こす危険性があると感じていた。自転車用の道路・走行帯の整備がされるとよい。

回答（総合政策部長）

新しく区画整理を実施した場所などでは、自転車専用のレーンを設けるなど、工夫している箇所もある。しかし、全市的に見れば、もともとの道路が狭い箇所が多く、すぐに対応することは難しい。長い時間をかけていく必要がある。

回答（市長）

日本の道の多くは狭く、自転車の通行を想定した作りになっていない。そこに自転車の専用道路を作るとなると、道路の拡幅が必要であり、相当に時間がかかってしまう。ただ、こ

れからの健康なまちづくりを考えた場合、必ずしも自動車に頼らず、自転車を使って生活できるという方向を考えていかなければならないのではないかと思います。